

## カレーとラーメンの二重性について

小山 達 矢<sup>†1</sup> Eヌマ U也<sup>†2</sup>

量子論の基礎が確立し始めた 20 世紀初頭から、不確定性原理や粒子の確率解釈など、それまでの古典的な世界観を覆す様々な理論が提唱されてきた。その中でもとりわけ革新的で量子論が発展する発端になったもののひとつに、光の二重性がある。これは光が波動と粒子の二つの性質を併せ持つという主張で、その物理的解釈をめくり、当時の物理学者を大いに悩ませた。このように、当たり前のように思われる事象には、時として常識を覆す意外性が含まれていることがある。我々はこのような性質を、ラーメンとカレーの食事的価値観の中に見出し、一方が食べ物である時には、もう一方が飲み物になることを示すことに成功した。ここにその概要を報告する。

### Dual Nature of Curry and Ramen

TATSUYA KOYAMA<sup>†1</sup> and IINUMA YUYA<sup>†2</sup>

As you know, quantum behavior is very alien concept. There are many theories of this realm. It include uncertainty principle, probabilistic interpretation, and dual nature of light, for instance. So, light has the wave-particle duality. By the way, Japanese Curry and Ramen is very delicious. Both can be something to drink Seriously.

#### 1. はじめに

日本国における国民の主観によると、カレーライスとラーメンの食事としての性質は非常に高い評価を得ている。社会実情を反映したある順位付けによれば、ラーメンは 3 番目、カレーは 7 番目に高い評価を得たという報告がある<sup>1)</sup>

光は波動と粒子の二面性を持つという量子力学の基本理論に発想を得て、我々はカレーとラーメンの持つ食事的価値観が、2 つの性質を併せ持つと予測した。本研究では、その性質を定量的に判断するための観測実験を行う。

#### 2. 食事相対性理論

現実世界に存在する食事は、大別して“食べ物”と“飲み物”に分けられるが、その性質は状況や観測者の主観によって相対的に変化する。これを食事相対性理論と呼ぶ<sup>2)</sup> 例えば一般的にカレーは食べ物であると認識されるが、Papaya Suzuki らによる報告によれば、カレーは観測者次第では飲み物になりうる<sup>3)</sup>

なお、この“食べ物”であるか“飲み物”であるかという性質を食事的価値観と呼ぶ。

#### 3. ある日の学食での出来事

いやさ、いつものように J 科のみんなと学食にお昼ご飯食べに行ったときのことなんだけどさ、なんかさ、カレーとラーメン同時に注文してるやつがいの。俺達マジびっくりしちゃってさ。で、ちょっと離れた席から注目して見てたら、普通に一人で食い始めてんの。別に体格も普通の人なんだけどさ。一人でカレーとラーメン両方食っててさ。いや何もパカにしてるわけじゃなくて、なんつーか關心しちゃってさ。もう俺達目エ離せなかったよ。

我々は以上の環境設定により対象の観測実験を行った。

#### 4. 観測実験

以下、観測対象を  $x$  として表す。カレーとラーメンを摂取する食事 1 サイクルの期間を 3 つに分け、 $x$  の行動を観測する。図 1 に、本実験の構成図を示す。

##### (1) 初期段階

はじめに、対象  $x$  はラーメンを優先的に捕食し始めた。これは、ラーメンが時間経過による伸張性を有するため、先に処理しなければ味覚的価値  $m$  が失われると  $x$  が判断したためと考えられる。この時点で、ラーメンは主食であり、その性質は“食べ物”である。ここで、カレーは中華料理におけるスープ的ポジションを

<sup>†1</sup> 木更津工業高等専門学校  
Kisarazu National College of Technology

<sup>†2</sup> 同上



図 1 実験の構成

Fig.1 Curry and Ramen, both sounds very good.

有しており、その性質は“飲み物”となっている。

## (2) 中盤戦

ここで、対象  $x$  の行動に迷いが見られ、カレーの方に箸(というかスプーン)を伸ばすようになった。これは、 $x$  がラーメンの味に飽きてきたと同時に、温度が低下することにより味覚的価値  $m$  が指数関数的に低下し始めたカレーを懸念するようになったためと考えられる。

## (3) クライマックス

観測が終盤に差し掛かると、 $x$  は水を投入し、ラーメンをある程度保持したまま捕食対象をカレーに変更した。この時、カレーは“食べ物”でありラーメンは“飲み物”である。この測定結果から、カレーとラーメンは、それらが一食事内に同時に存在する場合において、ある時は食べ物の性質を有し、ある時は飲み物の性質を有していることがわかる。加えて、一方が食べ物である時はもう一方は食べ物として観測できないという排他的な関係(カレー・ラーメンの非同時性)を有しており、両者には強い相関が見られる。

## 5. ま と め

本研究では、カレーとラーメンを同時に捕食する被験者を観測することにより、カレーとラーメンが一つの系に同時に存在する場合において、それぞれが食べ物、飲み物の性質を排他的に持つことを示した。今後の課題としては、この二重性を持つ事例と持たない事例(半ラーメン・半チャーハンや、そもそもカレーラーメンはどうなるのかなど)の法則性を検討すると

ともに、これらの事象を数学的に解析していきたい。

## 参 考 文 献

- 1) ウェブ：図録 日本人の好きな料理ランキング, <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/0332.html>
- 2) アルダーケ・シヨクジシタイン：カレーって飲み物なんじゃね？, 残飯処理学会論文誌, Vol.33, No.12, pp.1512-1526 (1992).
- 3) ウェブ：元祖！でぶや“ブタもおだてりゃよく踊る”の巻, <http://www.tv-tokyo.co.jp/debuya/back/040618.html>

(平成 19 年 11 月 28 日受付)

(平成 20 年 2 月 4 日採録)

小山 達矢(正会員)



昭和 62 年生。平成元年 誰から教えられたわけでもなく 2 の 13 乗を計算する。同年 ファミコンソフト “パラソル・へんべい” をクリア。平成 10 年 木更津市立中郷小学校放送委員会に入会。“小山君の校内放送” が人気を博す。平成 15 年 木更津高専情報工学科に入学し、テラスで友人とおでんを加熱。平成 19 年 一発芸を複数考案し試みるが、ウケない。平成 20 年 木更津工業高等専門学校 DJ 専攻に入学。別に DJ になれるわけではないと知り愕然。著書に「みつ豆つくるときは寒天 1g に対して水 120ml くらいなんだぜ」がある。

E ヌマ U 也(正会員)



昭和 62 年生。平成元年 草が抜けないのはアリさんが頑張ってるからだ と主張。平成 5 年 親を「怒ると叱るは違うんだよ」と諭す。平成 12 年 ゼルダの伝説博士課程修了。平成 15 年 木更津高専情報工学科に入学。同時にメトロイド博士課程修了。平成 18 年 木更津高専体育委員長に就任。体育祭で J 科を優勝に導く。平成 20 年 木更津工業高等専門学校 DJ 専攻に入学。本格的に DJ を目指し始める。現在、ドラクエ低レベルクリア研究所 主幹研究員。著書に「携帯に最新はいらない～俺は MOVA を使い続ける～」がある。